



11月22日（水）～2024年5月25日（土）

第14回 企画展 「日本が戦争になったとき—軍拡の時代と秘密戦—」
開催！



登戸研究所は、日中戦争が始まった1937年に電波兵器の実験施設として開設され、1939年に大幅に拡充されて、秘密戦のための総合的な研究・開発機関となりました。登戸研究所のこの拡充は、日中戦争が始まる前から計画された日本軍による軍備拡張（軍

拡）の一環でもありました。



展示資料より。日中戦争が長期化するなかで、増え続ける軍事費を調達するために募集された「支那事変国債」ポスター。
(1940年、複製、長野県阿智村所蔵)

現在の日本も急速に軍拡の道を歩もうとしています。今回の企画展が「今」の私たちの社会を考える上でのヒントを提供できるのではないかと考えています。(山田記)

■ 関連イベント

① 12月2日（土）13:00～15:00 企画展記念講演会

講師：館長 山田朗。企画展に関する内容を、日本近現代史の専門家の観点から深く掘り下げます。

② 2024年5月25日（土）

13:00～15:00 企画展記念特別対談「作家・アーティスト 小林エリカ氏×館長 山田朗」

風船爆弾を主題として少女たちが戦争の時代に巻き込まれていった様子を描いた『風船爆弾フォリーズ』（2023年『文學界』連載）の著者 小林エリカ氏と当館長 山田朗が対談します。

①②ともに会場は生田キャンパスメディアホール(予約不要,定員270名)およびZoomウェビナー(要予約,定員400名)を予定しています。

③ 企画展展解説会 解説者：館長 山田朗。11月25日（土）・2024年2月24日（土）・5月11日（土）13時開催（いずれも要予約）。

①～③いずれもイベント詳細・お申し込みは4面記載の当館連絡先までお問い合わせいただくか当館WEBサイト内企画展特設ページをご覧ください（右QRコード）。



企画展特設ページ



展示資料より。1945年3月に描かれた学童疎開児（現在の小学校6年生）の作品。
(複製、渡辺賢二氏提供)

今回の企画展では、近代日本における軍拡の歴史を概観した上で、1930年に始まる顕著な軍拡の一部として、秘密戦分野の軍拡（兵器開発と要員養成）も

あったことを明らかにします。なぜ1930年代になって日本が軍拡へと舵を切ったのか、それはどのような相手（仮想敵）を想定したもので、〈表側の戦争〉としての武力戦のためにどのような軍事力を構築しようとしたのかを示します。そして、その上で〈裏側の戦争〉としての秘密戦にはどのようなことが期待され、どのような兵器・資料開発、要員養成が行われたのか、その実態に迫ります。また、急速な軍拡のためのお金はどのように調達されたのか、軍拡にともなって言論統制がどのように展開されたのかを見ていきます。

■ 新作動画続々公開中！

アニメーション「80年前、ここは登戸研究所だった」
(制作 CINRA,Inc.・homevideo company)



皆さまからのご寄付「平和教育登戸研究所資料館振興資金」の一部を充当し、

若年層が登戸研究所について興味をもつきっかけとなるアニメーションを制作しました。今夏はオープンキャンパスや夏休みで多くの親子連れが来館されて観ていただき大好評でした。映像は「あなたは『人には言えないこと』をしたことはありますか？」との問いかけから始まりませす。このアニメーションによって、戦争はどこか遠くの場所、遠い昔に起きたことではなく、戦争の時代を「自分ごと」として考えるきっかけ作りになればと願っています。

対談「つむぐとき～ヒマラヤスギが伝える歴史」/「空からヒマラヤ杉をみてみよう～登戸研究所本館跡の空中散歩」(監督 中島唱太)



2023年5月に惜しまれつつも伐採された「ヒマラヤスギ」が伝えてきた旧登戸研究所本館跡

跡地の歴史や記憶、そしてこれからの未来についてを管 啓次郎(理工学部教授・詩人)×山田 朗(当館長・文学部教授)の対談でたどる内容です。またドローンによって撮影された美しい映像により、在りし日の登戸研究所本館跡地を散策しているような体験ができる映像も公開しています。アニメーション、ヒマラヤスギ関連映像は館内のほかYouTubeでも公開しています。そのほか、「日中戦争からウクライナ戦争を考える」やゾルゲ事件に関する講演会動画もYouTubeで公開中ですので、右



▲ここで紹介した動画やこれまでの講演会記録をまとめたYouTube再生リストです

のQRコードよりぜひご覧ください。

■ 2023 国際博物館の日記念イベント

5月13日の国際博物館の日にあわせ、当館では5月6日に記念イベント「一億総防諜戦士!?～紙芝居『スパイ御用心』の上演とお話～」を開催しました。紙芝居は国防保安法施行にあわせ、1941年に制作された国策紙芝居です。愛国婦人会に属する当時の女性に扮した学芸員による紙芝居上演後、館長によるお話「老若男女！一億総防諜戦士にいたるまで」を通じ、子どもも性別も関係なく、全国民が国家のために尽くし、余計なことを話さないよう互いを監視しあうシステムが構築されたことを伝えました。



若男女！一億総防諜戦士にいたるまで」を通じ、子どもも性別も関係なく、全国民が国家のために尽くし、余計なことを話さないよう互いを監視しあうシステムが構築されたことを伝えました。

■ 2022 年度博物館実習受け入れ




2022年度は2週にわたり明治大学6名、青山学院大学1名、立教大学1名、計8名の実習生を受け入れました。実習生には



旧本館跡地の防火水槽埋蔵物の調査(詳細は3頁の「Q&A」で紹介しています)や、新しい解説パネル作成、寄贈資料の登録に取り組んでもらいました。また、実習生の提案で見学経路も見やくなりました。その成果をぜひ館内をご覧ください。



資料館の非公式看板猫ふみふみちゃん（以下㊦）が、渡辺賢二先生（以下㊧）から、四半世紀以上にわたる調査の秘話を聞くコーナーです。

㊦ 「ふみふみちゃん、私がどうやって登戸研究所と出会ったのか、そしてどのような経緯で資料館が設立されたのか、この30年間のできごとを今日から少しずつお話ししていこうと思っているんです」

㊧ 「わあ！先生、私もずっと知りたかったの。誰にも知られていなかった登戸研究所がどうしていまみたいに公開されるに至ったのか。ぜひお願い」

㊦ 「はじまりは、とある新聞記者からの情報だったんです。戦時中、現在明治大学生田キャンパスになっている場所から何かが飛んできて稲が実らなくなったっていう噂がこの辺りにあるって」

㊧ 「なんだか不気味ね・・・」

㊦ 「それが1986年のことでした。そのとき私は川崎

市民のみなさんと一緒に『川崎市中原平和教育学級』という取り組みをしていたんですね。その中でこの話を紹介したら、ぜひ調べてみようということになって。それで戦争中の資料は防衛庁(当時)の史料室にあるはずだから調べにいったんですね。でもいくら調べてもどこにも登戸研究所に関する当時の資料や記録がないんです」

㊧ 「ええ!? それじゃ行き詰まりじゃない!!」

㊦ 「そうなんです。そこで登戸研究所跡地の明治大学生田キャンパスを訪れてみたんです。そこには…」

㊧ 「キャンパス内で先生はいったいなにを見たのかしら…そこから登戸研究所発掘が始まるのよね。どきどきする。次回もどうぞよろしくね」

(塚本記)

シリーズ Q&A

第二十回 「防火水槽」に当時のものが埋められている!?



写真1 出土した空き瓶

登戸研究所の史跡として生田キャンパス内の各所に残っている防火水槽。敗戦時、証拠隠滅のため燃やせないものは谷底などに捨てたという証言が残っていることから、防火水槽にも何か埋められているのではないかとこの質問を受けました。そこで「旧本館跡

一帯」に残されていた防火水槽を学芸員実習生と一緒に調査しました。

結果…登戸研究所時代の遺物は今回は見つかりませんでした。しかし、興味深いものが出土しました。写真1のバヤリースオレンジジュース(当時はバヤリースオレンジ)の空瓶です。この2本を見比べてみると陽刻等の違いがみられました。調べてみたところ写真1左の瓶は肩および銅部分の「NET CONTENTS:6¾FL.OZ.」の印字と陽刻(写真



写真2 容量を示す肩部の印字



写真3 容量を示す胴部の陽刻



写真4 商標を示す肩部の印字

2,3) および胴部「T.M.REG.U.S.PAT.OFF」の陽刻(写真4)より1949～50年代初頭にウヰルキンソン社が進駐軍用に製造したものだということが分かりました。一方写真1右の瓶は、「NET CONTENTS 200cc」(写真5,6)「T.M.REGISTRATED」(写真7)



写真5 容量を示す胸部の陽刻



写真6 容量を示す肩部の印字



写真7 商標を示す胸部の陽刻

となり、バヤリースオレシが日本国内に一般流通したときの瓶のため1951年以降のものでした。登戸

研究所跡地は1945～50年慶應義塾大学校舎として使用され、その後明治大学が取得し生田キャンパスとなります。そのため、進駐軍用のバヤリース瓶は明治大学以前に持ち込まれたものだというのが推測されます。なぜ、進駐軍しか手に入らないはずのバヤリースが当時の慶應義塾大学校舎にあったのでしょうか？それは今のところ不明ですが、それぞれの時代の学生がどんな学生生活を送っていたのかに思いを馳せるのも面白いですね。(塚本記)

〈参考資料〉京都新聞2018年6月8日付「進駐軍専用バヤリースの空き瓶、京都で出土 古墳からは国内用も」<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/26360> (2023年9月19日最終閲覧)、アサヒグループホールディングスWEBサイト<https://www.asahigroup-holdings.com/pressroom/pickup/20210927/index.html> (2023年9月19日最終閲覧)

資料館からのご案内

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により3年もの間、入館・開館日・イベントに制限をかけておりましたが、2023年度よりようやく通常開館ができるようになりました。皆さまにはこの間大変ご迷惑をおかけいたしました。来館者数もコロナ前に戻りつつあり、変わらずご支援いただけることに心より感謝申し上げます。

■ 貸切バス等の駐車場について

これまで貸切バスおよびお身体が不自由等の理由から車で来館の場合、キャンパス内の駐車場をご利用いただいていたおりましたが、キャンパス整備工事のため駐車場が廃止になっています。またキャンパス周辺域での駐停車・乗降も禁止ですので、ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。

■ 祝日・生明祭・年末年始の開館について

2023年度より水曜～土曜は祝日も通常開館しております(10名未満は予約不要)。また、大学祭「生明祭」

期間中の11/3(金祝)～5(日)は資料館も10時～16時で開館します。4年ぶりの大学祭通常開催ですので、ぜひこの機会に資料館にもご来館ください。なお年末年始は12/24(日)～1/9(火)まで休館です。

■ 見学会のお知らせ

山田館長と登戸研究所研究の第一人者・渡辺賢二氏による大好評の見学会は2023年度より定員を25名に拡大して復活しました。現在募集中の日程は渡辺賢二氏案内日12/9(土)13時～15時半です。ご予約は代表者名・人数・代表者電話番号を添え下欄の連絡先へお申し込みください。その他日程は定員に達しましたが、1月以降も引き続き開催しますので当館ホームページなどで最新情報をぜひご確認ください。



編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

発行日：2023年10月26日

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

明治大学生田キャンパス

TEL/FAX：044-934-7993 [✉ noborito@mics.meiji.ac.jp](mailto:noborito@mics.meiji.ac.jp)

Webサイト <http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html>

旧 Twitter @meiji_noborito

facebook <https://www.facebook.com/people/>

明治大学平和教育登戸研究所資料館 /100077822204861/

Instagram @meiji_noborito

2023年10月25日現在の累計来館者数は88,484名です